

学校リスクマネジメント推進機構 会員校インタビュー

— 学校法人廣池学園 麗澤大学、麗澤中学・高等学校 —

学校法人廣池学園（廣池幹堂理事長）は、学生生徒や保護者等、学校関係者の生命・身体・財産等の保護の重要性に鑑み、当機構の会員校として学園全体で積極的にリスクマネジメント・危機管理に取り組んでいる。

同学園は創立者・法学博士 廣池千九郎が提唱した道徳科学「モラロジー」に基づく知徳一体の教育を基本理念とし、学生生徒の心に仁愛の精神を培い、その上に現代の科学、技術、知識を修得させ、国家、社会の発展と人類の安心、平和、幸福の実現に寄与できる人物を育成することを理念として掲げている。

今回、このような理念を掲げている廣池学園に当機構の代表者が赴き、関係者へのインタビューを実施したので、その様子をお届けする。



■（写真左）左から

麗澤大学 総務部総務課長 尾崎謙一郎様

麗澤中学・高等学校 教頭 上平光孝様

麗澤中学・高等学校 生徒指導部長 教諭 和智裕児様

■（写真右）

学校リスクマネジメント推進機構代表 宮下賢路

～ インタビュー開始 ～

宮下 学校はたくさんの子供を預かり、教育を実施している非常に公共性の高い場所ですが、この組織の管理職としてリスクマネジメントについてどのようにお考えですか？

尾崎課長 「考えられないことを考えろ」とのトップの意向を受け、常に危機を想定して知恵を絞りながら対応力をつけることに努めています。金融危機、新型インフルエンザ等、過去数十年をみても想定できないことが起こりうる世の中であることは十分に認識しています。総合的に考えて危機管理・リスクマネジメントというものを見直す時代が来ているのではないかと考えております。

上平教頭 廣池学園は大学・中高・幼稚園とございますが、法人本部としての対策は方向性も明確で危機管理委員会なども機能していると思います。そして我々は“現場での個々への対応”という点に尽力をして、より具体的な意識改革をさらに進めていくことが必要ではないかと考えております。

宮下 学校リスクマネジメント推進機構ではご入会に際し、独自の基準で審査をさせて頂いておりますが、重点的な審査項目として列挙されているのは、トップの倫理や誠実性、学校の文化、気風等、いわゆる統制環境を重視しております。しかし、これらの項目に問題が認められ、かつ、「当面は改善が難しい」との審査結果に至った学校はご入会をお断りしています。貴校は当然ながら審査をクリアしてのご入会となっておりますが、当機構に入会をしてリスクマネジメントに取り組んでいることが外部へのアピールに繋がるとお考えですか？

尾崎課長 少し意味合いが異なりますが、先日、一部の自治体において「緊急地震速報」を学校の校内放送機器に連動させるシステムを順次導入していく旨の報道がされておりました。こういう状況になってくると、学生生徒・保護者、受験生などの視点で考えた場合、結局、学校がその装置を導入しているか否かで安心度が変わってくるのかと思います。当校でもこのような観点から、会員校となって様々な危機管理・リスクマネジメントのリソースを持っていること自体をホームページなどでアピールしていくことが結果的に学生生徒・保護者、受験生などに安心感を与えられるのではないかと考えております。



宮下

ありがとうございました。私もピーアールすることが安心感に繋がるという点は非常に大切だと思います。企業ではCSR（企業の社会的責任）という言葉がございますが、社会性の高い学校こそこのような取り組みが必要だと感じております。学校がリスクマネジメントを積極的に実施するのか否か。そして、どの程度のコストと人員を掛けて進めるのか。これは学校トップの経営姿勢を感じ取る指標になるのではないかと思います。最近では、貴校同様にリスクマネジメントの必要性を実感している学校が着実に増えてきております。

それでは次の質問ですが、危機の発生はゼロに抑えることはできませんが、発生頻度や影響度をコントロールすることで損失を最小限に抑えるという考え方がございます。このようなコントロールの重要性についてどのようにお考えですか？また、コントロールは可能だと思いますか？

尾崎課長

とても重要だと思いますし初期対応によってその後の状況に大きな影響が生じることも昨年受講させていただいた研修会等を通して再認識しております。また、事前準備をどれ位していたかによって、危機発生時の対応に費やす時間やコストが変わってくることも理解しております。

一方、コントロールの及ばない種類の危機についてはその発生自体をゼロにすることはできませんが、影響度や被る損失を最小限に抑える意味でのコントロールは可能であり、とても重要だと感じております。

上平教頭

私も尾崎さんと同意見です。危機の発生はゼロにはできないものの、目標は「ゼロ」で取り組んでいます。それでもやはり危機は発生しますので事前、事前の対策を重視しています。つまりリスクコントロールをすることが損失を最小限に抑えることに繋がるとの考えです。



宮下

リスクマネジメントの必要性は、様々なマネジメントリソースを守りローリスク経営を実現することのほかに、財務上の損失を防ぐという部分にあります。危機が発生すると莫大な損失が発生してしまうため、平時からリスクをコントロールして発生頻度を抑え、また、影響度を低減させる対策を講じる

必要があるのです。

和智教諭

やはり事が起こってから対応すると労力がとられてしまうため、事前準備や日々の予防を行うことにより、教師自らの負担も軽減できると思います。



宮下

つまり、リスクコントロールを行うことで人的な負担やコストの削減にも繋がるということですね。

宮下

それでは最後に当機構に期待するサービスについてお伺いいたします。

尾崎課長

業界での様々な成功事例や対応事例等の情報提供を望みます。
より具体的な例示によって理解を深めたいと考えております。

上平教頭

客観的に色々と改善点などを直接指摘していただけると非常にありがたいと思います。

宮下

我々が専門的なノウハウを投入することで、学校がリスク低減や軽減、又、回避等を図り、同時に皆様の作業負担を軽減できるよう、ご協力をさせていただきます。本日はお忙しいところ、ありがとうございました。

学校法人廣池学園

◎麗澤大学のホームページはこちら <http://www.reitaku-u.ac.jp/>

◎麗澤中学・高等学校のホームページはこちら <http://www.hs.reitaku.jp/>

お問い合わせ先

学校リスクマネジメント推進機構

東京都千代田区九段南3-2-15 富士ビル2階

電話03-3221-5657

<http://www.relief-point.co.jp/>